

QTAL会員募集



Quality Teaching for All Learners

京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター E.FORUMでは、2025年8月に「Quality Teaching for All Learners」というウェブサイト（以下、QTAL [キュータル] サイト）を開設しました。学校教職員、教育委員会関係者、教育支援職、その他子どもの支援に携わる専門職、及び教育機関に所属する方々であれば、無料でご登録いただけます。ぜひ会員登録をお願いいたします！

会員登録はこちらから



<https://qтал.educ.kyoto-u.ac.jp/>

QTALとは.....

すべての学習者に質の高い教育を保障したいという願いを込めて、教材や研修のコンテンツを提供するサイト（※）です。会員登録いただきますと、単元指導計画、デジタル教材、研修動画などの会員限定コンテンツを閲覧・利用することができます。

※本サイトは、内閣府によるSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」における研究開発テーマ「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」（研究開発責任者：松下佳代）の一環として構築いたしました。

The screenshot shows the QTAL website interface. At the top, there is a navigation bar with links for 'QTALとは', '企業の方へ', '教材検索', '研修検索', 'お問い合わせ', '会員登録する', and 'ログイン'. The '会員登録する' link is circled in red. Below the navigation bar, there are two main sections: 'QTALとは?' and '会員登録すると'. The '会員登録すると' section has a red arrow pointing to the registration form on the right. The registration form is titled '会員登録' and contains the following fields: 'お名前' (Name), '都道府県' (Prefecture), '学校名・所属名' (School/Institution Name), '学校等種別' (School Type), '所属区分' (District), '職名' (Job Title), 'メールアドレス' (Email Address), and 'パスワード' (Password). There is also a '確認' (Confirm) button and a checkbox for '新着通知を受け取る' (Receive newsletters).



<問合せ先>

京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センターE.FORUM
e-mail: e-forum.qтал@educ.kyoto-u.ac.jp (QTAL担当)



QTALには、下記のようなコンテンツが掲載されています。



パフォーマンス評価に関するコンテンツ

パフォーマンス評価とは、知識やスキルを活用して思考・判断したり探究したりする力を評価する方法です。QTALでは、パフォーマンス課題を取り入れた単元指導計画に加え、児童・生徒がより興味・関心をもって取り組めるような各種デジタル・コンテンツを提供していきます。教材の一部のみを使用するなど、カスタマイズも可能です。

単元指導計画 執筆者名:

教科	社会科	学校段階・学年	小学5年
単元名	情報を活かして発展する産業		
教材名	「情報(データ)の力で八方食堂を立てよう!」(経営戦略のコンサル)		
実施時期	12月~1月	単元の時間数	全 7 回

学習指導要領の関連内容

1 (A) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
(イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。
イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。
(イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

2 この教科・単元で重視したいこと(学習者の実態、教科の本質、社会に出てからの必要性等)
本単元「情報を活かして発展する産業」は、一般的に、各産業の情報活用の事例(医療の場合、観光の場合、福祉の場合等)について個別の知識を断片的に知る傾向にある。そのため、単に各事例を「知る」ということから、情報を活かして発展する産業について個別の具体を土台に抽象化して「認識を深める(社会の理解度を上げる)」ということを目指したい。「認識を深める」ためには、子どもたちが「実際の社会問題に対して、単元の中で学んだことを武器にして具体と抽象を行き来しつつ、

プリント教材

「和の文化」を知ろう!

—おすしの歴史—

おすしはどのようにして生まれたの?

- 東南アジアの「なれずし」という発酵食品がもとになって生まれた。
- 米つぶがどろどろになるまで発酵させるのがちょう。当時はの多い地域に住んでいた民族が、手に入りやすかった魚を持ちこさせるための方法として編み出したもの。

日本のおすしの歴史

奈良時代
なれずし: 餅(ず)は使わない。ご飯は食べずに、発酵のために使うものだった。

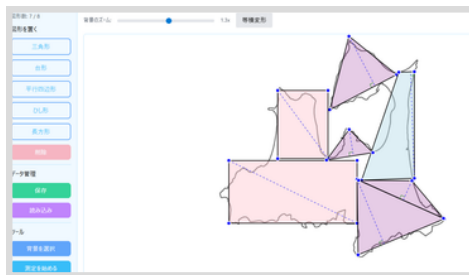
動画教材

くうき 空気

(酸素と二酸化炭素とちっ素)

- ...酸素のつぶ
- ▲ ...二酸化炭素のつぶ
- ...ちっ素のつぶ

酸素のつぶ
酸素の割合
酸素の割合



シミュレーター教材

シミュレーターを活用して「風力最強のハンディファン」を探る。

研修用動画

「逆向き設計」論とは何か

AICAN
Authentic and Inquiry learning focused educational Content and Assessment development

※本デジタル・コンテンツ開発は、内閣府によるSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)の課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」における研究開発テーマ「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」(研究開発責任者: 松下佳代)の一環として行っています。



『生きる』教育に関するコンテンツ

『生きる』教育とは、子どもたちが直面する「人生の困難」を解決するために必要な知識を身に付けるとともに、友だちとの真剣な話し合いを通じて自分と相手を大切にする価値観を形づくっていくプログラムです。QTALからは、単元指導計画に加え、教材・教具のデータ等のダウンロードが可能です。研究会のアーカイブ動画もご覧いただけます。

単元指導計画

京都大学大学院教育研究科 教育実践イノベーション・センターE-FORUM
『生きる』教育 プロジェクト

単元「子どもの権利条約って知ってる?」指導案

※以下でご覧いただけるのは、一つの例です。先生方の目標や子どもたちの実態に合わせて、適宜、変更していただければ幸いです。
※【】内の数字は、ウェブサイトに掲載しているファイルのナンバリングを示しています。

教科等	総合的な学習の時間など	学校段階・学年	小学校・3年生
単元名	子どもの権利条約って知ってる?—今の自分と向き合う		
単元の時間数	全 4 回		

単元目標

-子どもの権利条約の学習を通して、幸福に生きて成長するために家族や教育などが保障されること、これを知ること、社会に参加できることを知る。
-すべての人が生まれたときから有している権利は幸福な生活を営むために不可欠であり、守られなければならないことを理解する。
-自分たちの身の回りにも守られている権利、守られていない権利があることに気がつき、自らの権利を行動を起こせるようになる。また、権利の学習を通して自分の大切にしたいものについて理解を深める。

単元の指導の流れ

時数	教師による指導	子どもの活動、反応例	教材・教具など
----	---------	------------	---------

ダウンロード可能な教材

第2章 差別の解消
第6章 差別の解消
第9章 差別の解消
第12章 自分自身の権利
第16章 アイデアソン
第19章 アイデアソン
第24章 アイデアソン
第27章 アイデアソン
第28章 アイデアソン
第31章 アイデアソン

研修用動画

Trauma Informed Education Since 1980

- 【中3】社会の中の「親」と「子」
- 【中2】リアルデートDV ~支配と依存~
- 【中1】思春期の脳 ~トラウマ・アタッチメント~
- 【小2・3・4】治療的教育 ライフストーリーワーク
- 【小5・6】予防教育 デートDV・子ども虐待
- 【小1】心身のプライベートエリア

※本デジタル・コンテンツ開発は、SMBC京大スタジオの共同プロジェクト「貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える教育アプローチの研究開発と普及(通称:『生きる』教育プロジェクト)」(プロジェクト代表: 西岡加恵、山本尚毅)の一環として行っています。